

令和3年度学校評価アンケート（後期） 結果と分析まとめ

R04.1.3 教頭

1 提出数と割合

	対象人数	提出数	提出の割合	自由記述
前期保護者	世帯数 55	54	98.2%	6人
後期保護者	世帯数 52	51	98.1%	3人
児童(4～6年)※	30	30	100%	-----
職員	11	11	100%	-----

※児童の対象は、質問の意味を理解し、回答ができると判断できる学年・クラスの児童とした。

※職員自由記述は、アンケートではなく、「重点目標のふりかえり」への記述に一本化したため、アンケートには記入しなかった。

2 アンケートの集計（別紙）

3 自由記述まとめ(3通)

保護者（原文のまま）

- ・以前より、先生からの報告や連絡を受けるようになって少し安心しました。以前は、心配なところがあったので改善していただいていたありがとうございます。
- ・コロナ禍においてできる活動についてですが、高山は少人数ですし、机をグループにしていないのであれば、給食に友達や先生と話しながら楽しく過ごさせてほしいです。人数の多いクラスは、空いている教室を使ってグループ分けするなど、工夫すればできると思います。先生方も大変だとは思いますが、高山だからこそ、できることはしてほしいです。
- ・(命の話なども)性教育の大切さを知り、学校でも講師の方を招いて全学年にお話しをして頂ける機会を作ってもらえたらなあと思っています。

4 成果が表れた項目

◇1「子どもたちの学びたいという思いを大切にし、友達と考えを伝えあうことで共感できる場面を作り、考えを深めようと努めている。」

保護者の側から捉えると、前期は、感染症のため、保護者を招集する行事が十分にできなかったため、「わからない」との回答が多かったのではないかと考えられます。後期に入って感染症が落ち着いてきたため、学校へ足を運んでいただく機会が増えたことと、10月に実施したリモート授業参観について評価をしていただいたのではないかと考えられます。

また、お話タイムの時間を確保し、話し合い活動の充実を図ったことに対する評価が定着してきたとの見方もできます。

◇2「体育的な行事（運動会・マラソン大会等）や青空タイムの設定などで外遊びの奨励を通して、子どもたちの健康な体づくりに力を注いでいる。」

よく見ると、世帯数が減少したため、同じ数値でもデータがよくなっているような錯覚を起

こします。しかし、前期に既に50%が「十分」と答えていただいているので、高い水準を維持できているということは、十分な評価を得ていると捉えてよいかと思います。「運動会」「マラソン大会」と、本校の2大体育的行事が実施できたことが評価されている点であると分析できます。特に、感染がまだ十分落ち着いていなかった9月に延期を判断したことで、学校単独の開催となりましたが、運動会を無事実施できたことを評価していただいたと捉えています。

◇10「地域の伝統や自然環境を活かした教育活動を推し進め、嵩山の「人」、「もの」、「こと」を教材とした学びを大切に、地域とともに生きる豊かな心の育成を図っている。」

地域の教材や人を体験学習に活用する「嵩山学」は、本校の基本的な教育方針における生命線とも呼べるものであるため、コロナ禍においても、なんとか例年行っている活動を実施できたことについて評価をいただいたものと思います。

6月の「ふれあい交流会」は実施できませんでしたが、例年その日に実施している地域の筆工房の職人さんを招いての「筆づくり体験」や、12月の保育園児との交流会「秋のおもちゃで遊ぼう会」など、感染症対応が可能なイベントは実施してきたことが評価されたものと思われます。

◇11「お子さんは、友達がいて、仲よく学校生活を送っていますか。」

◇24「先生は、いじめや不登校のない学級づくりに取り組んでいると思いますか。」

少人数の学校と言えども、子どもたちは成長していく中では、さまざまな困難な状況を克服して人間関係を良好に維持していく方法を学んでいくため、トラブルがないという状況はありません。

職員の取り組みとして、子どもたちの情報を共有し、担任だけでなく、複数の職員で対応するために月に一度以上情報交換の場を設定しています。また、これとは別に、平成30年度から行っている「スマイル賞」の取り組みを継続しています。全職員でスマイル賞候補をあげ、話し合う中で、子どもたちのすばらしさに目を向け、一人ひとりの前向きな思いに寄り添う機会を定期的に設けている点は、職員の児童理解に大きな意味もっています。

普段保護者や地域の方に広報することはありませんが、こうした取り組みは、職員がチームとして子どもたちのケアに向かう姿勢を形作っていて、そのことを評価していただいたように感じられます。

◇16「お子さんは、学校行事に楽しく、意欲的に参加していますか。」

感染症が落ち着いていた10月～12月の3か月間で、それまでに行えなかった行事の多くを実施することができたのは、とても幸運なことでした。

運動会の実施、3年いきいき体験学習、小学校連携での消防署体験、学習発表会、マラソン大会、遠足と、まさにイベントだらけの日々でした。

前の学年で実施できなかった工場見学、消防署見学、スーパー見学等を下の学年とともに実施するなど、小規模校の強みをフルに生かして子どもたちの体験活動を実現することができました。

短期間に凝縮されてしまった体験活動をどのように学習に生かしていくか等、課題は多いと思いますが、いきいきと目を輝かせて行事に参加する子どもたちの姿勢を大切にしていきたいと思います。

感染対策の中での行事開催は、今後も続いていく大きな課題です。人々の意識を高め、安全な生活と、体験機会の確保をどのようにバランスよく実現していくか、十分な方策が必要であると言えます。

5 課題が表れた項目

- ◆3「思考を深める図表，プログラミングのソフトや教材を有効に活用し，論理的な思考力を高める学習活動を展開するよう努めている。」

令和元年の研究発表の頃より月日が経ち、その時点で使用していたアプリや機材を利用しにくい状況となっています。GIGA スクールタブレットが配付され、子どもたちが iPad 等の端末に触れる機会は飛躍的に上がりましたが、Wi-Fi 環境が GIGA タブレット用に変更されたため、日常的な体育館での使用等、先進的に本校でできたことができなくなってしまいました。

「論理的な思考」については、研究で培った指導方法は、本校の教科指導に脈々と受け継がれており、成果として息づいています。子どもたちがそれを実感する機会はあまりなく、「授業参観は、すべてプログラミング学習の要素を入れる」ということを見聞きしてきた保護者の皆様には、この項目に関して物足りなさを感じていることと思います。

ご承知の通り、プログラミング学習は必須となっているため、当たり前のように取り組んでいる項目になりました。今後は、GIGA タブレットの有効活用を含め、子どもたちが ICT 機器やアプリを使いこなす、社会に参画する実践的な力の育成として、充実した教材が提供できるよう、研修を深めていきたいと思っています。

- ◆12「おさんは、家族や地域の方に挨拶をしていますか。」

前期の自由記述でもご指摘いただいたことで、その際は、「(マスクごしであっても)目や態度で相手に敬意を表す表現力の獲得」をめあてとして指導を進めてまいりました。コロナ禍にあっては、マスクが日常となり、大声を出さないことがマナーとなりました。「元気な声であいさつ」という、本来の子どもたちの姿を求めることができないのは、残念ながら前提としなければならない現実です。

「元気な声」は、相手への敬意として、とても分かりやすい行動ですが、深く考えるなら、それは最終的な目的ではありません。挨拶は、「相手への敬意の表現」ですから、このコロナ禍において、子どもとして、どうしたらそれができるのかを考えていかなければなりません。

恐らく、本校だけでなく、全世界が今直面している課題の一つかと思われます。この先、しばらく間、コロナと共に生活をしなければならない時代が続いていくかと思われますので、「小規模校だから」として避けるべき課題ではないように思います。もしかしたら、子どもたちが社会に出たときに、マナーやルールが変化している可能性があるからです。

「相手への敬意の表現」については、学校だけでなく、皆様とともに考えていきたいと思っています。

- ◆22「先生は、本を読むような（読書を好きにさせるような）指導をしていると思いますか。」

職員のアンケートでも、「そう思う」と答えた者が 10%と低迷しているため、指導する側が反省しなければならない大きな課題と言えます。

設問 6 の「青空タイム等の外遊びの励行による体づくり」は、高い評価を受けています。子どもたちの休み時間の使い方として、「外遊び」と「読書」は、時間的に言えば相反する項目になるのかも知れません。

「読書が楽しい」と感じるようになるためには、ある程度の時間的な余裕は必要です。また、読解力のレベルアップは、子どもたちが獲得しなければならない基本的な学力ととらえるなら、時間だけでなく、そのために取り組むべき方策を子どもたちに示してあげなければならないと思われます。

昨今は、必ずしも知識は本からもたらされるものではないので、図書館での指導と同時に、タブレット等の端末から、いかにして必要な情報を探し出すかというスキルが身に着くよう指導していくことも大切です。

いずれにしても、前向きな気持ちで子どもたちが主体的に取り組めるよう、工夫をしていかなければなりません。

Ⅲその他の項目について

◇6「体育的な行事（運動会・マラソン大会等）や青空タイムの設定などで外遊びの奨励を通して、子どもたちの健康な体づくりに力を注いでいる。」

◆19「お子さんは、学校で積極的に運動し、健康的な体づくりを行っていますか。」

「体づくり」という意味においては、視点は異なりますが、同じ分野の項目 2 つです。6 はまずまずの評価をいただいています。19 は、前期と比べて大きくポイントを下げています。

アンケートの視点が異なりますので、そのまま解釈すると、学校では十分に組み込んでいますが、子ども本人は、そうでもないということになるのでしょうか。課題は、「児童の主体的な取り組み」が不足しているという解釈ができます。

令和 2 年に現行の指導要領が開始されましたが、従来の「関心・意欲・態度」という視点が「学びに向かう力」と表現されました。この項目で言うなら、「健康的な体づくり」に向かっていく力が不足していると捉えるべきであるかも知れません。そのためには、体を動かすことが楽しいと感じてほしいし、体づくりが、自分にとって必要なことと実感する機会を設けなければなりません。

小学校の部活動が廃止となった今日、小学生にとって休み時間の外遊びは、健康的な体づくりを行う上で、とても重要な時間となったことを考え、主体性を高めていく取り組みをしていこうと思います。

- 「読書が楽しい」と感じる読書指導の充実
- 主体的に体づくりができる子の育成
- マスクをしていても相手への敬意を伝えることができる表現力の育成
- GIGA タブレット等の ICT 機器活用についての充実した指導